

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨地実習	3年次	必修	実習	11単位（440時間）	金子 博司 ※
授 業 概 要					
1年次・2年次の講義、実習、演習で学んだ内容を基に、検査技術、患者に対する接遇、病院における臨床検査技師の役割について学ぶ。					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、社会人として活躍するための良識を身につけるとともに、医療人として倫理観を身につける。</li> <li>・臨床検査の現場に身を置き、臨床検査技師として不可欠な臨床検査の基本的な実践技術を修得する。</li> <li>・提供する臨床検査情報の意義、精度管理の必要性、そして検査研究の重要性を認識するために、疾患へ興味をもち、検査情報をもとに病態解析のアプローチを身につける。</li> <li>・医学・医療の専門職として医療チームの一員として積極的に取組むために、医療における臨床検査及び臨床検査技師の役割と責任を知り、医療人としての自覚を持つ。</li> </ul>					
実務経験のある教員					
回	学 習 内 容				担当教員
1～ 220回	<p>1年次・2年次で学んだ内容を基礎とし、病院における臨床検査技師の役割、検査技術、患者接遇について学ぶ。なお、医学の進歩を踏まえた臨床への参加型実習をさらに進めていく観点から、臨床検査技師を目指す学生が臨地実習において実施すべき基本的行為について、経験及び修得すべき技術の範囲を明確化した上で、臨地実習において学生に必ず実施させる行為、必ず見学させる行為、実施させることが望ましい行為及び必ず見学させるのが望ましい行為として以下に臨地実習項目を示す。</p> <p>1. 必ず実施させる行為</p> <p>「生理学的検査」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・標準12誘導心電図検査</li> <li>・肺機能検査（スパイロメトリー）</li> </ul> <p>「検体検査」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・血球計数検査</li> <li>・血液塗抹標本作成と鏡検</li> <li>・尿定性検査</li> <li>・血液型検査</li> <li>・培養・Gram染色検査</li> </ul> <p>2. 必ず見学させる行為</p> <p>「生理学的検査」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホルター心電図検査のための検査器具装着</li> <li>・肺機能検査（スパイロメトリーを除く）</li> <li>・脳波検査</li> <li>・負荷心電図検査</li> <li>・超音波検査（心臓、腹部）</li> <li>・足関節上腕血圧比（ABI）検査</li> </ul> <p>「検体検査」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精度管理（血液学的検査、病理学的検査、尿・糞便等一般検査、生化学的検査、免疫学的検査、輸血・移植検査）</li> <li>・メンテナンス作業（血液学的検査、病理学的検査、尿・糞便等一般検査、免疫学的検査、生化学的検査）</li> <li>・臓器切り出しと臓器写真撮影</li> <li>・迅速標本作成から報告</li> </ul> <p>「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検査前の患者への説明（検査手順を含む）</li> <li>・チーム医療（NST、ICT、糖尿病療養指導）</li> </ul>				臨地実習指導者他

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検体採取</li> <li>・消化管内視鏡検査</li> </ul> <p>3. 実施させることが望ましい行為</p> <p>「検体検査」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・血栓・止血検査</li> <li>・HE染色や特殊染色検査</li> <li>・病理標本観察</li> <li>・細胞診標本作成と鏡検</li> <li>・尿沈渣検査</li> <li>・血液ガス分析検査</li> <li>・交差適合試験</li> <li>・不規則抗体検査</li> <li>・同定・薬剤感受性試験</li> </ul> <p>「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・採血室業務（採血行為を除く）</li> </ul> <p>4. 見学させるのが望ましい行為</p> <p>「生理学的検査」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動誘発電位検査</li> <li>・体性感覚誘発電位検査</li> </ul> <p>11 単位のうち 3 単位以上は、生理学的検査に関する実習を行う。また、臨地実習時間の 3 分の 2 以上は、病院又は診療所において行う。</p> <p>生理学的検査項目は、各施設による包括同意を得た上で、個々の患者から口頭での個別同意を得て実施することとする。また、すべての検査に関して、学生の実施した検査等の情報をそのまま臨床へ提供することはせず、必ず指導に当たる者が確認、又は再度実施した上で臨床に提供する。</p> <p>すべての臨地実習施設に対して臨地実習調整者として専任教員を 1 名配置する。臨地実習指導者と連携して実習内容の構築、学生の実習状況把握、事故発生時の対応にあたる。学生にとって効果的な臨地実習が行われるよう実習期間中に最低 1 回は実習施設を訪問し、実習環境の整備や実習進捗の確認、メンタルサポートも含めた連携・協働体制を構築する。</p>	
--	---	--

学 習 方 法

- ・臨地実習指導者の指示に従い、検査技術と各種検査データの臨床的意義、チーム医療の実際、患者接遇、医療安全対策等、総合的に学習する。

評 価 方 法

- ・臨地実習指導者評価（50%）および臨地実習修了試験の成績（50%）をもって評価する。  
なお、臨地実習修了試験の出題科目・形式は国家試験に準ずる。
- ・すべての評価・試験に合格することを単位認定の条件とする。

先 修 科 目

基礎分野、専門基礎分野及び専門分野のうち、1 年次及び 2 年次に配当されているすべての必修科目、及び臨床検査総合実習

教科書、参考書

講義・実習の教科書、参考書等、臨地実習マニュアル2021